

令和 2 年 5 月 10 日現在

機関番号：16201

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K03845

研究課題名（和文）「満洲国」の都市中国人商工業者の研究

研究課題名（英文）Chinese Businesspeople and Industrialists in Urban Manchukuo

研究代表者

張 曉紅 (ZHANG, xiaohong)

香川大学・経済学部・教授

研究者番号：00452722

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は先行研究で必ずしも重要視されてこなかった「満洲国」期の都市で活躍した中国人商工業者に光を当て、その存在形態と都市工業化における役割を明らかにすることを課題とした。具体的には、奉天市を事例とし対極的な経済政策がとられた綿紡織業と機械器具工業に関わる対象者を考察し、さらに、「満洲国」支配下にある中国人商工業者の対抗と協力の全体像への接近を試みた。最後に、中華人民共和国創成期の東北経済の前提条件を提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は中国近現代経済史および日本の植民地研究に貢献できる。具体的には、「満洲国」期の都市における中国人商工業者の活動実態の究明や、日本帝国支配と現地中国人経済との関係の解明に寄与できる。本研究は中華人民共和国期の東北経済との関連性も意識しつつ、「満洲国」期の中国人資本の活動を評価するように努めた。「満洲国」期の都市を拠点とする中国人商工業者を対象とする検証は、戦後経済に移行後の東北経済・人民共和国経済の起点への理解にも有益である。

研究成果の概要（英文）：This study sheds light on Chinese industrialists and businesspeople active in cities during the Manchukuo period, a group that previous studies have not always regarded as important, by describing their characteristics and activities as well as their role in urban industrialization. Specifically, using the city of Fengtian as an example, this study examines businesspeople engaged in the cotton spinning and machinery manufacturing industries, which were targeted by contrasting economic policies; attempts to paint an overall picture of competition and cooperation between Chinese businesspeople and industrialists under Manchukuo rule; and sets forth the preconditions for the northeastern economy during the formation of the People's Republic of China.

研究分野：経済史

キーワード：満洲国 中国人商工業者 奉天 民族産業 植民地都市

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は先行研究で必ずしも重要視されてこなかった「満洲国」(以下「」を外す)期の都市で活躍した中国人商工業者に光を当て、その存在形態と都市工業化における役割を明らかにすることを課題とする。

これまでの満洲国期の中国東北経済に関する研究を、日本帝国主義による「支配と収奪」あるいは「従属と抵抗」(帝国主義と植民地) 近代化、工業化という視点からの研究と2分類して研究史の整理を行うとしたら、以下ようになる。

の研究は、農村、鉱工業、鉄道、財政、金融支配など日本帝国主義による中国支配の要となった分野や、侵略の社会的基盤の研究も含めて、日本国内外の研究者によって盛んに行われてきた(たとえば、満洲史研究会編『日本帝国主義下の満州』(御茶の水書房、1972年)を代表とする1970~1980年代の研究成果、植民地進出を果たした日本人商工業者を研究対象とする柳沢遊・木村健二等の一連の研究業績など)。こうした研究は日本による東北支配が種々の矛盾と抵抗を生み出し、その植民地的再編成に成功しなかったことを明らかにしてきた。しかし、支配する側の視点が中心をなしているため、支配される側の商工業や経済組織、経済主体である中国人商工業者の実態究明には至らなかったことを指摘しなければいけない。

について、中国側の研究は傀儡政権のもとでの産業構造の畸形的な発展を強調し、日本側は工業化の展開、戦時と戦後との「断絶」と「連続」の視点から、日系国策大企業が牽引役とした重化学工業化は中華人民共和国期の東北経済への還流の有無について実証的な研究がなされてきた(代表的な研究者は、日本側は松本俊郎、峰毅、飯塚靖、中国側は孔経緯、解学詩、衣保中などである)。人民共和国の創成期における東北地域の圧倒的な地位を押し上げた担い手はなにかを改めて考えると、もちろん日系大工場の残存の再稼働は重要であるが、それだけではない。日本支配による圧迫を受けながらも、満洲国期には複数産業領域にわたって中国人中小工場を含めた重層的な産業集積の萌芽がみられ、それが戦後になって編成替えされ、東北地位を押し上げる顕著な要因にもなった。この点について、これまでは必ずしも重要視されてこなかったが、東北近代工業化の解明に欠かせない大切な視点である。

中国人資本の動態を対象に含めた研究成果は全くないわけではないが、軍閥と結びついた金融機関について小林英夫の研究(小林英夫「満洲金融構造の再編成過程」前掲『日本帝国主義下の満州』)や風間秀人の大豆流通にかかわった糧棧の研究(風間秀人『満洲民族資本の研究』緑蔭書房、1993年)、中国人商工業者の成長を背景とした1920年代に起きた中日商工業者間の矛盾の拡大に着目する久保亨の研究(久保亨「日本の侵略前夜の東北経済」『歴史評論』第377号、1981年9月)に限られる。その中で、農産物流通を担う糧棧を事例とした風間の研究は、満洲民族資本について初めての本格的な成果と称された。糧棧は確かに民族資本の代表的な経済主体に違いない。しかし、それより、都市で活動した膨大な中国人商工業者に代表される、多くの個性的な経営主体に対する考察は近代における日本帝国の満洲支配下にある中国人商工業者の全体像の究明には不可欠である。しかも、人民共和国の創成期において、全国の経済を大きく支えていたのは、瀋陽(奉天)、大連、鞍山などの拠点都市で行われた工業生産であったため、都市を舞台とした商工業資本の検証は、戦後東北経済の起点(前提条件)を理解するうえにおいても重要であろう。

以上の問題意識に基づき、私はこれまで、奉天市、哈爾濱市などの都市における綿織物業、機械器具工業に従事する中国人綿織物生産業者「機房」、綿糸布商「糸房」、中小機械器具工場「鉄工廠」などを対象に、中国人商工業者活動の実態解明に努め、先鞭をつける研究業績を出してきた(張曉紅『近代中国東北地域の綿業 - 奉天市の中国人綿織物業を中心として』大学教育出版、2017年。同『満洲国』期における奉天の工業化と中国資本』柳沢遊他編著『日本帝国勢力圏の東アジア都市経済』慶應義塾大学出版社、2013年)。ところが、都市の工業化問題に即した形で、産業ごとの変容を横断的に比較し、生産を担う工場と流通・販売を担う商人のそれぞれの活動を、川上から川下まで垂直的に分析することは実現できなかった。本研究はこうした課題の解明を目的とする。

2. 研究の目的

本研究の眼目は満洲国期の中国東北現地経済の担い手である中国人商工業者の生産、流通・販売の実態を明らかにすることである。具体的には、奉天市を事例とし対極的な経済政策がとられた綿紡織業と機械器具工業に関わる対象者の考察を通して、満洲国支配下にある中国人商工業者の対抗と協力の全体像への接近と、人民共和国創成期の東北経済の前提条件の提示を試みたい。

3. 研究の方法

以上の研究目的を達成するために、本研究で採用した方法は以下の通りである。すなわち、研究対象となる中国人商工業者の多面的な活動に関する資料を、中国と日本国内で広く収集し、断片的な資料をつなぎ合わせ、以下の2点をめぐって検討を行った。

業種別に、中国人商工業者の生産、流通・販売実態、および都市工業化におけるその役割を検討し、それぞれの特徴を明らかにした。その際に、工業と商業とのつながり、現地経済に精通する担い手としての強靭さを大切にした。

日本支配に対して協力と対抗の二面性を合わせ持つ都市中国人商工業者の存立形態を考察した。そこには、支配政権に臨機応変に対応する現地資本の強かさが確認できた。

4. 研究成果

本研究から得られた主な成果、および今後の展望は以下の通りである。

上記「3. 研究の方法」については、綿紡織業に関していえば、満洲の綿布生産と流通・販売において、中国人綿糸布商「糸房」の存在が大きく、彼らは日系機械大工場製品と棲み分けしつつ、独自の金融・流通・販売ネットワークを持ち、都市および背後地市場における綿布生産販売の中心的な役割を果たした。機械器具工業について、日中戦争以降、現地調達主義が強まる中で機械器具中国人工場が台頭した。中国人工場の製品を一般市場向け商品と親工場への納品と2分類してみれば、前者は生活必需機械器具製品生産へ、後者は日系大工場の下請工場へ特化していった。しかしながら、彼ら両者は完全に分離しておらず、闇市場に連通する商人やブローカーとのつながりを持ちながら経営をこなしていた。機械器具中国人工場の活動は経済統制が崩壊に向かった要因を見出すために有益な視座を提供してくれた。

「3. 研究の方法」で言及した問題は、満洲国支配末期（1942-1945年）において、経済統制と在来経済社会との矛盾として顕在化され、日系経済官僚を苦悩させた根本的な難題であった。政府は物資不足に伴うインフレの深刻化と闇取引の横行を対処するために満洲国内の土着資本を活用しようとしたが、効果はなかった。末期の都市における中国人商工業者は、満洲国の政策的誘導と裏腹に、多額の遊休資金を不動産や都市近郊土地の購入に使い、あるいは中国本土に持ち出した。都市に留まる商工業者は、統制外領域への転業、または工場の零細分化を図ることによって統制から逃れるようにして、経営を続けた。

上記2点以外に、次の研究成果も得ることができた。

1つは、日本帝国の支配下において急速に膨張した重工業都市においてみられた都市社会問題を、中国人労働者の視点から考察したことである。同成果は、「膨張工業地域における都市社会問題 奉天市の中国人労働者を中心に」（政治経済学・経済史学会『歴史と経済』239号（大会報告・共通論題「戦時社会問題」の展開と帰結）、2018年4月、22-29頁）としてまとめた。

もう一つは、満洲国期の中国人資本の活動を人民共和国創成期の中国東北経済との関連性を意識しつつ展開した研究成果である。報告「戦中戦後の瀋陽・哈爾濱における工業化」パネル・ディスカッション「戦中・戦後初期における中国東北の工業化」（2019年度政治経済学・経済史学会秋季学術大会、早稲田大学、2020年1月11日）はそれである。

ほか、本研究から得られた知見を踏まえて、書評を寄稿したことも付け加えておきたい。各書評では、書籍の根幹に寄り添いつつ、満洲国の都市中国人商工業者の立場から問題提起を行った。詳細は、以下の2件である。「上田貴子著『奉天の近代 移民社会における商会・企業・善堂』、『経営史学』54巻3号、2019年12月、51-53頁。」「李盛煥・木村健二・宮本正明編著『近代朝鮮の境界を越えた人びと』、『歴史と経済』。投稿済み、巻号未定。

今後の展望として、まず、上記の研究成果の発信に努めたい。それと並行して、満洲国期の研究は1945年以降の中国東北経済との強い関連性に着目して、本研究によって確認できた中国人商工業者の実態を、次の研究課題となる「戦中戦後の瀋陽・哈爾濱における工業化と商工業者」（2020年度科学研究費助成事業基盤研究Cに採択）に引き継いでいき、新プロジェクトの中で活用していきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 張曉紅	4. 巻 239
2. 論文標題 膨張工業地域における都市社会問題－奉天市の中国人労働者を中心に－	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史と経済	6. 最初と最後の頁 22と29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 張曉紅	4. 巻 239
2. 論文標題 膨張工業地域における都市社会問題－奉天市の中国人労働者を中心に－	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史と経済	6. 最初と最後の頁 40と54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 張曉紅
2. 発表標題 戦中戦後の中国東北工業化 奉天・哈爾濱を中心に
3. 学会等名 2018年度政治経済学・経済史学会中国四国部会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 張曉紅
2. 発表標題 膨張工業地域における都市社会問題－奉天市の中国人労働者を中心に－
3. 学会等名 2017年度政治経済学・経済史学会秋季学術大会・総会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----